

# 不動産公売物件のお知らせ

市では、市税の滞納により差し押さえた不動産を入札によって公売しています。下記の公売財産を購入したい方は、市役所に掲示してある「公売公告兼見積価格公告」などを閲覧し、物件の明細などを確認してください。公売に参加を希望される方は、事前に参加申込書の提出が必要です。参加申込書の様式は、税務課窓口もしくは中野市公式ホームページからダウンロードできます。

ご不明な点は、税務課までお問い合わせください。

## 公売の対象となる土地・建物

所在地 中野市大字小田中字村上 139 番地 3  
土地面積 139.89㎡  
地目 宅地  
建物種類 居宅  
構造 木・鉄骨造亜鉛メッキ鋼板葺3階建  
建物面積 1階80.51㎡ 2階80.10㎡ 3階58.79㎡  
築年月 昭和61年1月  
交通状況 長野電鉄信州中野駅から徒歩15分  
見積価格 393万円  
※面積・構造などは登記簿の表示です。

### ▼建物の外観



## 参加申し込みおよび公売日程

公売方法 入札  
申し込み期限 9月30日(火)  
入札日 10月7日(火) ※即日開札  
公売場所 中野市市民会館 42号会議室  
公売保証金 40万円  
※参加申し込み後に、公売が中止になる場合があります。

### ▼建物の間取り



## 入札に参加される方へ

入札する前に現地で公売財産の状況を確認したり、所在地を管轄する登記所で登記簿を閲覧し、権利関係などを確認しておくことをお勧めします。

問い合わせ・申し込み先 税務課収納係 ☎(22)2111 (内線227)

## 広報クイズ

### ■今日のプレゼント

「ブドウ狩り(種無し巨峰)ペアチ  
ケット」…2組

### 問題

中野消防署および豊田消防署の  
平成25年火災発生件数は?  
「●件」

クイズの答え、住所、氏名、年齢、  
電話番号、世帯主名を記入の上、今  
月の広報で参考になった記事、今後  
知りたい情報などはがきに書いて、  
次の宛先までご応募ください。

締め切り 9月22日(月)必着  
※当選はプレゼントの発送をもって  
代えさせていただきます。

先月号の答え 平成28年から新たな  
国民の祝日となる「山の日」はいつ?  
答え・・・「8月11日」

383-8614

(住所記載不要)

中野市庶務課  
秘書広報係 行

住所・氏名・年齢・  
電話番号・世帯主

# 市民リレー元気の輪

No.3

徳竹常子さん  
からのご紹介



## ○自己紹介

妻と夫婦2人で暮らしています。

50年以上ブドウを栽培しており、現在は約70坪の畑で、主にピオーネとシャインマスカットを栽培しています。ブドウは種無しで皮ごと食べられることが消費者の一番のニーズになってきているので、今後はナガノパープルとシャインマスカットを主体にしていきたいと考えています。また、自前の大型冷蔵庫を活用して、露地物のピークの時期からずらして出荷する「遅出し」に挑戦したいと思っています。

ハーモニカやオカリナが趣味で、それぞれ10年以上指導を受けて続けています。誰でも手軽に演奏できるものですが奥が深く、上手な人の演

奏を聴くと、少しでも近づきたいという気持ちで湧いてきます。

旅行も好きで、夫婦で年に一度、海外旅行に行くことを目標にしています。エジプトのピラミッドやミャンマーの寺院など、世界の壮大な造形物を見ることが、人との出会いなどが楽しみです。



▲ブドウの手入れをする小林さんご夫婦

## ○元気の秘訣

妻と一緒に15年ほど連続で人間ドック（1泊）に行っています。その結果を気に掛けて、大好きなお酒を少し控えるようにしました。月の半分を目標に「休肝日」を設け、お酒を飲まなかった日は、妻がカレンダーにシールを貼ってくれます。おかげさまで健康は維持できています。

## ○おらほの自慢

中野市は農業、特においしいブドウが自慢ではないでしょうか。日本人のみなさんにおいしいシャインマスカットを食べてもらえようように、これからも頑張りたいと思います。

小林 直美 さん (栗和田)



# 池田市長の

# わくわくレポート

vol. 14

## 地域における消防団の役割

阪神淡路大震災や東日本大震災で防災における消防団と団員の重要性は、等しく誰もが感じているところである。

まず、最初に駆け付けけるのが消防団員の皆さんである。そして常備消防などが帰った後も、災害現場に残り最後まで詰めるのも消防団の皆さんである。現場は常に危険との隣り合わせ。それぞれ生業をもちつつの任務である。

近年、人口減少、少子高齢化が大きな社会問題として捉えられている中で、地域防災の要といえる消防団の活性化は喫緊の課題であるといえる。若い人たちが少なくなり、地域の災害に備えるためには、団員組織の在り方、その装備の充実等見直さなければならぬ課題が山積している。こうした社会



環境の変化を踏まえて、行政としても、安全性を向上させつつ、その機能充実、負担の軽減等を総合的に見直していかなければ

ならない。

もとより、消防団で任務に当たる皆さんは、地域の中に常にあり、様々な地域活動にも参画していただいている。地域社会の活性化は消防団員の皆さんとともにあるといっても過言ではあるまい。

司馬遼太郎の街道をゆくシリーズに「十津川街道」がある。その一節に、若者が社会性を育むため、一定の年齢になると若衆だけの集団、いわゆる「若衆組」に入り、様々な世の中の仕組みや事情を学ぶ機会を得ていたといった件がある。こうした古い制度にも似たものを要求する時代は消え去り、昨今ではインターネットやSNSが普及し社会の様相が大きく変容し、若い人たちの考え方も変わってきている。

一方で、少子高齢化、人口の偏在が顕著になってきている時代においては、地域固有の文化を継承しつつも、新しい仕組み、新しい装備、新しい感覚の消防団の在り方を考えなければならぬ時が、すぐそこに来ていると思う。

